

“継続は力”。理系の仕事を継続して見えてきた道

山本里枝子（株式会社富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所 シニアディレクター）

仕事の内容とやりがい

仕事は、ITC企業の研究所として、弊社のSIを支えるソフトウェア開発に関する研究を中心に、品質の良いソフトウェアを効率的に開発する技術（「ソフトウェア工学」と呼ばれる技術分野）を開発し、弊社のSE部隊への提供、弊社製品化などを目指します。

私にとって仕事とは、“社会人として当然やるべきこと”。楽しいことばかりではありませんが、その分、研究開発した技術が、実際に使われて開発者の生産性を上げたとの結果が出る、製品となって世に出て売り上げをあげる、などの成果がやりがいに通じています。

進路決定のきっかけ

ITC関連の技術者は想定外の進路でした。そもそもは医学部志望でしたが、医学部受験を親に猛反対され断念。浪人して医学部受験を許可してもらおうと、形だけのつもりで理工学部を受験し合格、結局は親と先生に説得されて入学しました。とはいえ、入学したからにはやるべきはやろうと、自分の学科の中でなるべく広い範囲の勉強に取り組みました。就職自体は大学の研究室のOBにお誘い頂いた富士通研究所に決めました。

仕事と家庭のバランス

仕事はおもしろく、独身時代は同期の色々な方面の友達と情報交換もし、仕事中心の生活をしていました。結婚・出産後は、やはり家事負担が倍増。子供が保育園時代は、定常的に子育てを助けてくれる人がなく、また子育てを助けてもらおうと期待すると自分の中に不満が溜まっていくことも理解しました。なので、とにかく公私ともにやるべきことを、自分なりに効率よくこなすよう心がけました。子供の存在は精神的に強い支えとなり、キツイ時代を乗り切れた気がします。子供が小学校に上がる際、学童保育を求めて、それまで住んでいた横浜市から東京都へ引越しをしました。その後は、実家の母の支援もあり、仕事の比重を元通り増やしていきました。子育て環境は地域差が大きいので、住む場所を変えてでも、子育て環境を優先して整えることが、仕事を続けていくために必須だと考えます。

進路選択に対してのメッセージ

進路選択には、自分の資質や希望を第一に考えることが大切だとは思いますが、希望がかなえられなくても、自分が得た環境でやるべきことに主体的に取り組んでいけば、前進できます。私は、自分が今の人生を歩むとは高校時代には想像もしていませんでしたが、どこかの時点に戻りたいとも思いません。どこに進もうと、前進をとめなければ道は開けます。子育ての負担で一時的に厳しい状況もありますが、仕事は“継続”することが大切です。どうか、自分の得た環境で何事にも積極的に取り組んでみて下さい。

<山本里枝子（やまもとりえこ）プロフィール>

桜蔭中学・高校 → 早稲田大学理工学部電子通信学科 → 富士通研究所入社（社内で、事業部配転、研究所復帰、事業部兼務なども経験。結婚し、一児を出産）→ 現職

